



インドネシア人実習生のスーツケースの中。定番アイテム母国の調味料の中に、マスクが見えます。

企画・編集 澁谷 健司・栗又 由利子

12月に入りました。今年は例年以上に、あっという間の1年間だったと皆さんお感じではないでしょうか。9月からのレジデンストラックでの実習生の入国再開、14日間の自宅待機期間措置を含めた集合研修の実施に忙殺されている間に、気が付けば師走。短く感じられる1年間でしたが、これまでにないほど多くのことを経験したり、考えさせられたりした1年間でもありました。来年も、この見えない敵、いつまで続くのかわからない敵、新型コロナウイルスとの生活で、日本の社会も変化していくでしょう。その変化の中から実習生の皆さんが学ぶべきことを日本語指導に取り込んでいきたいと考えています。

本年も、1年間大変お世話になりました。新しい取り組みが続く中、何かとご不便をおかけすることも多いと思いますが、日本語講師・スタッフ、一丸となってこの難局に取り組んでいきますので、当校日本語指導に対するご理解ご協力、来年もどうぞよろしくお願ひいたします。

あじけんスコープ Vol.92 ~新しい生活習慣の定着への取り組み~

10月に実習生の来日が本格化して以来、当校でも3密（密集・密閉・密接）回避と手指の消毒の習慣化に、学校生活・寮生活を通して取り組んでいます。14日間の待機後は、寮での集団生活に移行しているので、「クラスター」の危機は、決して他人ごとではありません。その中で、全体的に緩みがちなのが、密接に対する意識だと感じています。年齢やお国柄もあるのか、休み時間や清掃等いわゆるソーシャルディスタンスを意識しない実習生が目立っています。また、最近では寮での食事のとり方、過ごし方についても3密の回避を呼び掛けています。



マスクを付けて、前後の距離を意識して登校する実習生の皆さん

今月の実習生

今月はミャンマーからの実習生 WAI PHYO AUNG（アウン）さんを紹介いたします。アウンさんは、来日以来、母国から持参したメガネ型のフェイスシールドを愛用。日本ではあまり見かけないタイプなので、「いい、フェイスシールドだね！」と声をかけると、「ミャンマーではこのタイプのフェイスシールドがよく売られています」とのことでした。



わたしはアウンとうもします。ミャンマーからきました。わたしは？さうです。にほんにきたのははじめてなのでとてもふあんです。にほんにゐるまえコロナがしんぱい。ですからマスクとフェイスシールドをかいました。にほんはさあいですけどもわたしはとてもたのしいです。たべものゝのみものはたかいですけどもおいしいです。

教室で自慢のメガネ型フェイスシールドを掛けるアウンさん

あじけん流日本語授業

～ 「リモート授業」 その1 ～

今月のあじけん流日本語授業は、当校で行っている「リモート授業」についてご紹介いたします。

14日間の待機期間中は、教室に集まって授業が行えないため、日本語の授業も待機期間中は、リモートで行わざるをえません。講師も初めての経験のため、試行錯誤しながら、実習生のみなさんに、少しでもわかりやすく伝えられるよう、日々「画面」と格闘しております。

今回は、当校の講師が工夫をしている点についてお伝えいたします。実習生は隔離中の部屋で、自分のスマートフォンを使い授業を受けているため、実際に実習生が見ている画面は大きくありません。できるだけわかりやすく伝えるため、ジェスチャーを多く使うようにしています(写真1)。その他、文字がわかりやすく、画面の中にしっかり入るよう小さめのカードを自作することもあります(写真2)。また、リモート授業の学生と対面授業の実習生が混在することもあります(写真3)。リモートの実習生にも、対面の実習生にもわかりやすいよう、画像を使って授業を行うという工夫をしている講師もいます(写真4)。講師も慣れない授業のため、まだコロナ禍以前のような授業展開等はできていませんが、今後も実習生の日本語力の向上のため、研究を続けていこうと思います。



写真1：ジェスチャーを多く使うようにしています

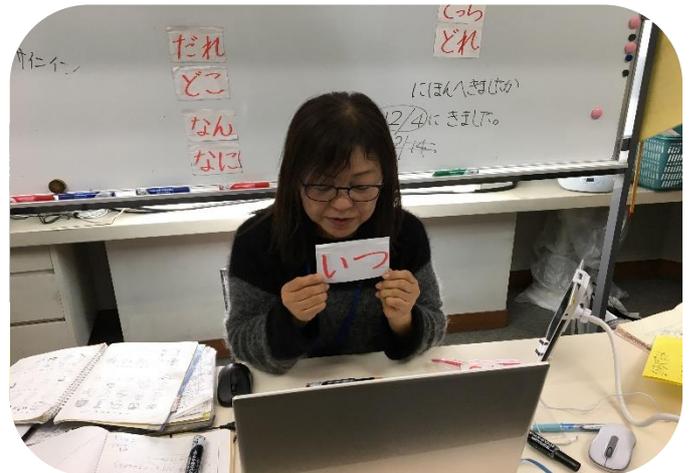


写真2：自作のカードを使用しています



写真3：画面にリモートの実習生、教室に対面の実習生がいます



写真4：画像を使って授業も行います